

梅村庭園 (八雲町)



池越しに望む梅雲亭や蔵

道内には珍しい本格的な池泉回遊式庭園

1892(明治25)年に八雲村に入植した、尾張徳川家家臣の梅村多十郎が、1912(明治45)年に建設した蔵、離れ、洋館(現存せず)とともに造園したものである。1923(大正12)年ころから、函館の庭園師野中松太郎の作庭により1930(昭和5)年ころ完成した。

池泉回遊式庭園で、伝統的造園技法が随所に見られる。中心の池は湧水で満たされ、池の周りに築山や枯れ山水を巧みに配置し、珍しいコンクリート造の灯籠も配置されている。庭内には、ドウダンツツジやレンゲツツジなど色々なツツジをはじめ、イチイ、アカマツ、モミジなどが植樹され、池に映る離れや蔵、新築の休憩施設梅雲邸などとともに、四季折々の景観が楽しめる。

2001(平成13)年から町所有となり、2002～2003年に開町125周年を記念して、蔵と離れを繋ぐ梅雲亭を整備して公開されている。



手入れよく保存されている

概要

名称	梅村庭園
所在地	八雲町末広町151番地
管理者	八雲町
規模	不明
種別等	公園
整備年	1912(明治45)年～
開設年	2002(平成14)年～2003(平成15)年整備公開
	1983(昭和58)年に八雲町指定文化財に指定



細工の施されている石橋